

■ごあいさつ

なぜ子どもは人形劇が好きなのでしょう？

どうしてあんなに無心になって人形劇を楽しめるのでしょうか？

たぶん、人形にはもちろん、森の木々にも、動物たちにも、石ころにまでも命や心があると信じているからです。

あまりに早く、科学万能の世の中に放り出されてしまった子どもたちの心は、乾いています。

やさしさは、人間や万物が生命の営みを共有していると感じる気持ちが源です。

人形劇のもつ不思議な力は、きっと子どもたちを空想の世界で遊ばせることでしょう。

私たちは子どもたちをもう少し長く、ファンタジーの世界にとどめておいてあげたいと思っています。



かやごんごん

日本の昔話「笠地蔵」より

むかし昔、ある所に「のん気な」爺さんと「元気な」婆さんがおりました。その村のはずれには「五つのお地蔵さん」が並んで立っていて、そこは子ども達のお気に入りの遊び場でした。なぜかという「腹ぺこの」子ども達は、ときどきお地蔵さんのお供え物のお団子を、こっそり食べちゃったりしていたからです。

うらかな春の日のこと、いつものように爺さんがクワを担いで畑に行く途中、お地蔵さんの前まで来ると「じいさん、じいさん！」と婆さんの声が聞こえます。何ごとかと振り返ると、息をはずませて婆さんが追いかけてきました。婆さんはお地蔵さんにお供えするお団子を持って走ってきたのです。婆さんは「ハアハア：」息を整えると、お団子をひとつずつお供えしました。そして残りを二人で食べようとしたのですが、七つ持ってきたはずなのに「あらあら？」あとひとつしか残っていません。不思議に思って二人がお地蔵さんを「よく」見ると「ふうん？」五つだったはずのお地蔵さんが「なんと！」六つになっているではありませんか。眼を凝らして「もつとよく」見ると、一番端っこのお地蔵さんがキツネのような顔をしているのに気づきました。「はあ」爺さんと婆さんはキツネがお地蔵さんに化けているのを見破りましたが、やさしい二人は知らんぷりをすることにしました。二人がいなくなるとしてしばらくすると、キツネ顔のお地蔵さんが「クルリンパッ」と宙返りをしてキツネに戻り、素早くお団子をくわえて、山の中へ走り去って行きました。桜の花も散って春が終わり、ギラギラ太陽の照りつける暑い夏の日も、さわやかな風にスキがそよぐ秋の日も、爺さんは畑を耕し、婆さんは糸を紡いだりして働きました。もちろん、お地蔵さんへのお参りとお供えも欠かしません。やがて木枯らしの冷たい冬になり、年の瀬を迎えましたが、二人はとても貧乏で、お正月を迎えるというのに食べるものが何もありません。そこで、今にも雪が降り出しそうな寒い日でしたが、爺さんは食べ物を買うために、婆さんの紡いだ糸を売りに町へ出かけていくのでした。

お問合せ・お申込みは・・・

■上演の手引き

- ・会場に特別なステージは必要ありません。
- ・舞台には間口5.4m×奥行4.5m×高さ2.7m位のスペースが必要です。
- ・上演に必要な機材はすべて持ち込みます。
- ・電気の容量は20A(アンペア)程必要です。
- ・上演効果をあげるため暗幕をご用意下さい。
- ・上演時間は約60分で、準備に90分、片付けに60分程度かかります。
- ・1回の公演定員は150名までが適当です。
- ・上演料は、観客数と距離によって異なりますので、お問合せください。
- ・ご予約はお早めに.....。

とらまる人形劇団



一般財団法人とらまる人形劇研究所

〒712-8014 岡山県倉敷市連島中央1丁目11-7

TEL 086-486-1305 E-mail:puppet@toramaru.link

FAX 086-486-1306 <http://toramaru.link>

■とらまる人形劇団とは...

2003年からの10年間、香川県東かがわ市にあった日本で唯一の人形劇学校「パペットアーク」。この学校は一般財団法人とらまる人形劇研究所によって運営され、様々な取り組みを行ってきました。「とらまる人形劇団」はその人形劇学校の卒業生によって2005年に財団附属の専門人形劇団として旗揚げし、2013年4月から岡山県倉敷市に拠点を移しました。今年で結成22年目を迎え、人形劇表現の追求と、地域に根ざした活動を目指しています。